

**令和7年度
松戸市地域自立支援協議会
指定事項調査部会 報告書**

1 委員構成

(部会長)早坂委員、(職務代理者)高橋委員、大友委員、藤田委員

2 活動概要

令和7年4月1日付け、松戸市長から諮問のあった以下の特定事項について、自立支援協議会から付託され、調査審議した。

諮問内容	調査審議事項	調査依頼先
地域の障害福祉に関するシステムづくりに関する事項	障害のある方が安心して就労できる環境づくり	松戸市障害福祉のあり方検討会就労支援部会
地域の関係機関によるネットワークの構築に関する事項	要支援児童に対する関係機関との切れ目のない連携構築	松戸市障害福祉のあり方検討会こども部会
相談支援事業の効果的な推進に関する事項	(1) 相談支援体制の連携強化及び計画相談の質の向上 (2) 個別事例の検討を通じた地域課題の改善	(1) 松戸市障害福祉のあり方検討会相談支援部会 (2) 松戸市相談支援事業所連絡会

3 会議開催状況

実施回	実施日	実施内容
第1回	令和7年8月6日	調査方法等の検討
第2回	令和7年12月25日	調査報告書内容に関する審議

4 調査方法

指定事項調査部会から諮問に係る事項について関連機関に調査依頼を行った。今年度から新たに諮問事項となった「個別事例の検討を通じた地域課題の改善」については、松戸市相談支援事業所連絡会に調査依頼を実施した。

5 報告書内容

次頁のとおり

松戸市障害福祉のあり方検討会 相談支援部会報告書

調査事項	相談支援体制の連携強化及び計画相談の質の向上		
活動項目	①地域生活支援拠点の整備に向けた検討	②就労選択支援の開始に際しての相談支援事業所側の準備	③SSWとの連携推進・強化
現状	地域生活支援拠点が国から示された本来の機能を担えていない。	10月より新たな障害福祉サービスである就労選択支援が開始された。	障害児の相談支援を行うに際して、学校との連携が敷居が高い。
課題	拠点＝緊急一時保護のイメージが相談員の中にも浸透しており、本来の役割が認識されていない。 拠点コーディネーターに国が求める要件にあった事業所がなく、人的・経済的な資源が不足している。	相談支援事業所において、就労選択支援の詳細が十分に把握されていない。	相談支援専門員と学校側の担当者のつながりが弱く、障害児のために連携して動くことが難しい。
具体的な取組み内容 (取組み経過)	障害福祉課拠点担当者より事業説明を受けた。 全国の好事例と拠点コーディネーターの役割や配置について勉強会を実施した。 グループワークにて既存の資源を活かした、人材育成の方向性、地域移行の現状と課題、相談支援体制の整備について具体的に検討がなされた。	7月の市・就労支援部会の共催の就労選択支援意見交換会に参加し、サービスの全体の流れ等について理解を深めた。また、8月の就労支援部会にオブザーバーとして参加し、それぞれの内容を相談支援部会で共有した。 9月の部会で、担当職員からの説明と質疑応答を実施した。	市内中学校の教頭先生5名とSSW20名以上が参加して情報交換を目的とした交流会が行われた。 学校と障害福祉のお互いの理解が徐々に深まりつつある事がわかった。
調査事項に対する 要望等	拠点コーディネーターを配置し、地域の体制整備を進めて欲しい。松戸市独自の枠組みの創設等を含め、市としての方向性を示してほしい。 相談支援専門員の理解を深めるために地域生活支援拠点運営協議会の内容と、拠点コーディネーターの配置に向けた進捗を共有してほしい。 自立支援協議会や周辺会議体で、今後も地域生活支援拠点について検討していきたい。	今後、就労選択支援の実績が積み上がり、運用の詳細が確定していった際には、相談支援事業所にも内容を共有してほしい。	引き続きSSW等との交流会を継続し、参加者を増やし、連携を深めていきたい。

松戸市障害福祉のあり方検討会 就労支援部会報告書

調査事項	障害のある方が安心して就労できる環境づくり	
活動項目	①適切なサービスを選択できる仕組み作り	②市内で働きやすい環境や制度を整える
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年10月1日より、新たに「就労選択支援」事業が開始する事に伴い、基盤整備が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者雇用率が令和6年に2.5%に上がったが、令和8年に2.7%まで上がることから、障害者雇用を前向きに検討・実施している企業が増えている。 ・「障害者を雇用してどのような仕事を任せればいいかわからない」「長く障害者雇用をするにはどうすればいいか知りたい」など、障害者雇用に不安を抱えている企業がある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本サービスを円滑に実施するため、関係支援機関にて共通理解を図る必要がある。 ・厚生労働省のマニュアルに記載されていない、実務上の課題を抽出する必要がある。 ・当該事業の実施者に一層のアセスメント力の向上が求められる。 ・10月1日よりサービスが開始したが、実施事業所は0であった。(11月開始事業所は1か所のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者雇用のイメージが掴めなかったり、障害者を雇用したが長く続かず、就職後の相談窓口などの相談窓口に関する情報を得られないと言う理由から障害者雇用に踏み出せない企業がある。
具体的な取り組み内容（取り組み経過）	<ul style="list-style-type: none"> ・7月8日に、市と共催で本サービスに関する意見交換会を実施。参加者は、関係する支援機関（本サービスの実施予定事業所、相談支援部会、特別支援学校、市ケースワーカーなど）。グループワークの中で、本サービスの全体の流れを理解するとともに、各機関において支援の際に起こりうる課題を抽出することができた。 市より、意見交換会で抽出された課題に対する回答・解決への方向性を示してもらうことで、関係機関の不安を解消し、本サービスを開始するための一助となった。 今後はサービスの円滑な運用に向け、部会として必要な取り組みを検討・実施する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月28日に、市経済振興部商工振興課が開催している事業者向けセミナーにて、障害者雇用の拡大に向けた啓発活動等を実施。部会員がセミナー開始前の時間で障害者雇用に関する相談窓口などの案内を行った。参加した企業は6社（説明時は3社）であった。 ・11月20日に、障害者雇用率未達成企業や障害者雇用を考えている企業向けに「令和7年度障害者就労促進チャレンジ事業」として、企業見学相談会を実施。 今年度もハローワーク松戸とビック・ハート松戸との共催で実施した。千葉県内の中小企業に声をかけ、当日参加企業は8社15名であった。 ・就労移行ネットワーク・就労継続ネットワークと、障害者雇用率や就労後の支援、職場への定着率などについて、定期的に情報共有を実施している。 上記の取り組みにて、企業側の障害者雇用に対する不安感や疑問の解消の一助となった。
調査事項に対する要望等	<ul style="list-style-type: none"> ・就労選択支援の利用者向けに、制度に関しての周知・普及啓発の更なる実施。 ・事業所向けに、就労選択支援を実施する事業所数を増やすための取り組み。(先行事業所の取り組みを共有する機会を設けたり、アセスメント力向上のための研修会を開催するなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者雇用について周知啓発できる機会の情報提供(市主催のイベントや行事など)

松戸市障害福祉のあり方検討会 こども部会報告書

調査事項	要支援児童に対する関係機関との切れ目のない連携構築		
活動項目	①医療的ケア児の支援体制	②切れ目のない支援(就学時)	③切れ目のない支援(18歳)
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児とその保護者が適切な支援を十分に受けることができていない。 ・医療的ケア児とその保護者、支援者の相談体制の整備がなされていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援機関の間で情報の連携が円滑にできておらず、就学への移行に際して時間を要している。 ・外国籍の障害児に対して、必要な支援の手が届いていない。 	<p>軽度知的障害児や発達障害児が、進路を選択するための情報提供等のサポートを得られず、準備の遅れ等によって、支援の切れ目が生じやすくなっている。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児に対応できる専門職や事業所等の社会資源が不足している。 ・医療的ケア児やそのご家族が必要とする支援の連携を担う人と相談窓口が少ない。 ・医療的ケア児に対応できる事業所等の情報がまとめられておらず、家族や支援者が情報へアクセスがしづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関の情報連携のために有益であるライフサポートファイル(以下「LSF」という。)の知名度が低く、十分に活用されていない。 ・外国籍の保護者に対して、就学等に関する必要な情報を伝えることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校以外に通う軽度知的障害や発達障害の本人や家族が、18歳以降の進路の選択肢について、情報を得る機会が限られている。 ・特別支援学校を卒業した方も、学校からの手厚いサポートが無くなってしまい、支援に関する情報を得られなくなってしまう。
具体的な取組み内容 (取組み経過)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児の支援に関わる課題について検討した結果、支援者の研修体制の強化や「医療的ケア児等コーディネーター」の配置が求められるという意見を抽出した。 ・医療的ケア児に対応できる事業所の情報を、ご家族や支援者にわかりやすく伝えるため、医療的ケア児等に関するガイドブックを作成することを決めた。作成にあたり、掲載する内容及びアンケート項目を具体的に検討した。 	<p>LSFの活用について協議し、以下のような意見が出た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所へLSFの書式(PDF・Word)をメールにて周知し、書式や活用方法を見てもらう。 ・保護者へのLSFの配布時に、活用方法のチラシを添えて説明しながら配布する。 ・支援者が書類を渡す時に、LSFにつづるように案内したり、情報連携の手段として、支援の際に持参を求める。 ・QRコードの追加等、チラシの内容を再検討する。 ・LSFフォーマットの項目の再検討する。 <p>外国籍の方に対する支援について、どのような工夫をしているかを参加者間で共有した。相談先の案内がスムーズにできるよう、早期相談支援マップの活用について共有した。</p>	<p>保護者や支援者向けに、学校卒業後に社会に出る際の障壁(18歳の壁)を経験した家族及びケース事例を紹介し、また多様な選択肢の案内をするフォーラムを2月に開催する予定。</p>
調査事項に対する 要望等	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアに対応できる人や相談窓口になる人を育成する研修体制を整備してほしい。 ・「医療的ケア児等コーディネーター」の配置に向けた準備を進めてほしい。 ・ガイドブックが完成したら、関係機関に周知・配布してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹相談支援センターにてLSFの案内を実施。チラシとファイルの配布を、より積極的に行ってほしい。(特に認定調査) ・LSFのクリアポケットを6枚に増やし、インデックスを追加してほしい。(案として、タグタイトルは、医療、福祉、就学前、小学校、中学校、高校の6つを希望。) 	<p>今後も、保護者等を対象とした情報提供の機会を設けてほしい。フォーラムでの経験談から課題を発見し、今後の検討事項としていきたい。</p>

相談支援事例 指定調査部会報告

松戸市相談支援事業所連絡会
会長 大友有理子

【事例集約期間】 令和7年10月14日～令和7年12月2日

【報告数】 35事例

【各相談員より収集した事例における課題】※事例内容は別紙1 提出事例概要 別紙2 事例検討シート参照

〈特に多かった事例〉 障害のある方の暮らしの場について 8事例

- ・日中活動支援型ホームにおいて、障害特性に合わせた支援が難しく利用を中断された事例もあった。
児童の短期入所、家族のレスパイトの場所の不足も含まれる。

(身体障害者の事例) 1事例

- ・ME/CFS（筋痛性脳脊髄炎）の患者の支援から特殊な症状に対する支援体制の構築の難しさを確認。
障害へのアプローチの仕方、人的資源の確保について、相談員一人で担わず、基幹や行政も関わりアイデアや資源の開発がなされる体制づくりが必要なのは。

(精神障害者の事例) 1事例

- ・入院以外のレスパイトの場、緊急の場合も含め、受け入れてくれる短期入所の場所の不足が挙げられた。
- ・日中活動の場所、ご本人の特性に配慮した福祉サービスの不足が挙げられた。

(知的障害者の事例)

- ・医療受診を拒否され、受診をあきらめざる得ない現状がある。1事例。
- ・経済的な搾取。されていても気づかない場合がある。1事例。

(児童の事例)

- ・短期入所の場所の不足に関しては、それぞれ意味合いは異なるもの、3事例。
特にお子さんが養育困難な場合や、親御さんに疾患がある場合など、ご家族に対する負担は非常に大きいことは想像がたやすく、兄弟児も含め子どもの育ちに様々な影響を及ぼすことが想定される。
- ・精神疾患や知的障害の親御さんの子どもたちの療育や生活支援に関して、2事例。
対象児の心理や生活全般の状況を様々な方向から確認していく必要がある。子ども自身は与えられた環境が適正なのかを判断できるだけの力を特に幼少期は持ち合わせていない。教育を受ける権利・健康や衛生、安全を守られる権利が侵害されていることに気づくことさえできないかもしれない。障害を持つ親御さんの子どもたちをどう支援していくか、様々な権利をどう守っていくのか、きちんと検討していくことも地域課題として読み取れる。
- ・児童相談所について、1事例。教育や療育、生活環境等の必要性を確認しても、生命の危機的な状況がない限り、対応がなかなか進まないのは他事例でも見受けられる。人的資源も、お預かりする場所も、かなり不足しているのでいかようにもならない様子。では、松戸市としてはこのような現状にどう対応していくのか、子どもにとって必要な資源をどう確保していくのか、地域課題として読み取れる。
- ・外国籍の親御さん、1事例。言葉の壁によりお子さんに適したサービスに繋がらない状況がある。
- ・子どもの個性や特性に応じた支援について、適正なアドバイスを得られない、4事例。松戸こども発達センターの外来が数か月に一度しか受けられず、療育が子どもの成長や変化に全く追いついていないという意見もあった。子どもの個性や特性に応じた支援について、適切にアドバイスができる機能や、子どもの成長に合わせた療育を継続できる場所の確保が課題として挙げられた。
- ・特別支援学級、支援学校の過密化、教員不足。5事例。成長に必要な支援が充分受けられない。

- ・子どもたちの尊厳について、3事例。成長に適した呼称、声掛け、対応など、放課後デイや支援学級において、意識されていない場面がみられる。

【事例から課題が上がったが、実際は検討、対応が可能と思われるケース】

- ・不登校の障害児に対して、放課後デイは利用できるが、ふれあい学級やほっとステーションなど、学校の枠組みの中で利用できない。福祉サービスに抵抗感がある親御さんもいる。(1事例)
 - ⇒児童生徒課に確認：障害のある子が利用できないということはない。実際に利用している子もいる。
しかし、環境や支援、教育内容が対象の児童に適したものが提供できるかは事前に検討が必要。
- ・障害のある子たちは指定された支援級や支援学校の2択で、ほかの学校への見学も許可されないことも。普通級の子どもたちは、小学校、中学校への入学時に指定校以外の学校を選べる。
 - ⇒学務課に確認：特別支援学級、支援学校へ入学予定の子どもも、普通級の子どもと同じ条件で対応することになっており、その旨は学務課発行の「入学のご案内」にも記載されている。

【今回の事例集約についての意見】

- ・挙げた事例の中には、地域課題には至らず、対応方法の課題というものもあった。しかし地域課題につながるものだけを挙げてください、と伝えたときに事例提出のハードルは上がり、課題につながる、であろうケースを見逃してしまうことにつながる恐れがある。相談員たちに、地域課題とどうつながるかを意識してもらいながらも、事例を挙げやすい雰囲気づくりが必要と思われる。ケースワークとして対応が困難と感じたらひとまず事例を挙げてもらい、その後、地域課題につながるか、或いは個別ケース対応としてのアドバイスを行っていくか検証していくという過程をとるのが良いと思われる。
- ・今回は、事例を集約する、というところまでしか行えていない。上述したように、集約した内容の精査や、更には提出した事例について対応の困難さを抱える相談員へのアドバイスなども行っていく必要があるであろう。今回、事例の集約については、相談支援連絡会の少数で対応した。しかし、事例の地域課題としての検証や、相談員への指導も行うのであれば、基幹相談支援センターや主任相談支援専門員の協力が不可欠である。相談支援専門員の量的確保に協議会を含め注力を図る中、この取り組みは、迅速に、具体的に、相談員をサポートしていく取組ともなり、事例集約にとどまらない効果が期待できる。

松戸市として、基幹相談支援センターや主任相談支援専門員が今回の取り組みに協力することに対してインセンティブを付与することに加え、相当の協力を得た主任相談支援専門員が配置される事業所においては、主任相談支援専門員配置加算(I)取得の検討をお願いしたい。

以上

提出事例概要

【事例集約期間】 令和 7 年 10 月 14 日～令和 7 年 12 月 2 日

【報告数】 35 事例

【報告傾向・内容】

○身体障害者…1 事例

（暮らしの場について）

- ・中途障害者の日中活動、生活の場を見つけるのが難しい。

○身体・精神合併… 1 事例

（暮らしの場について）

- ・CS（化学物質過敏症）の症状が強くなり、他人が自宅に入っただけの支援が難しくなる。現在ヘルパー一人のみ自宅内支援。他の人は入れない。

○精神障害者…2 事例

（日中活動の場、暮らしの場について）

- ・独居、希死念慮。措置入院を繰り返す。入院以外のレスパイトの場がない。
- ・発達障害もあり。利用希望施設への送迎方法、サービスが見つからない。

○知的障害者…8 事例

（暮らしの場について） 4 事例

- ・本人の特性を理解し支援を描けるホームが見つからない。
昨今のニュースもあり、民間企業の運営するホームへの不信感がある。（3 事例）
- ・軽度知的で自立的な方の利用できるアパート型のホームが少ない。

（障害のある親御さんをお持ちの方） 2 事例

- ・精神障害、知的障害を持つ親を持つ、子どもたちへの適切な育ちへの支援や場所が明確でない。

（家族からの経済搾取） 1 事例

- ・家族がホームまで本人のお金を取りに来る。本人に被害意識はない。

（福祉サービスの利用を避けたい方へのサポート） 1 事例

- ・知的障害が福祉サービスの利用から外れた場合、アウトリーチの難しさがある。

○知的障害・精神障害合併… 1 事例

（保険の適用の問題）

- ・物損した時、本人に責任能力がないと保険会社の判断。加入していた保険が利用できなかった。ホーム側の対応にもならず、結局親御さんが負担した。

○児童…7事例

(障害のある親を持つ子どもたちへの支援) 4事例

- ・精神障害、知的障害を持つ親を持つ子どもたちへの適切な育ちへの支援や場所が明確でない。
- ・児童の短期入所が少なく、精神疾患も含めた親御さんのレスパイトができない。2事例
- ・児童相談所の対応について、生命の危機的な状況がない限り、対応がなかなか進まない。
親御さんが精神障害や知的障害などで、適切な養育が出来ない場合、療育的・教育的視点でのニーズの高さにはなかなか対応できず、教育的・療育的に不足した状況に子どもが長年おかれることになり、子どもの発達にも影響を及ぼしている。

(外国籍の親御さん) 1事例

- ・外国籍の両親、言葉が上手く通じないため、SOSが出せない。

(不登校の子の通う場所) 1事例

- ・不登校の障害児に対して、放課後デイは利用できるが、ふれあい学級やほっとステーションなど、学校の枠組みの中で利用できない。福祉サービスに抵抗感がある親御さんもいる。

(養育困難な子どもの支援についてのアドバイス) 1事例

- ・発達センターに関わっていても、発達検査をしていても、放課後デイに通っていても、養育の困難な子どもとの関りに対する有効なアドバイスがもらえない。

○松戸市こども発達センター利用のお子さんをお持ちの親御さん方のご意見

松戸手をつなぐ育成会からのサポサポへの報告…9事例

(発達センターについて) 2事例

- ・発達センターの外来が数か月に1回しか利用できず、子どもの成長や変化に全く追いつかず、意味がないと感じる。
- ・専門外来が通園部の卒業と同時に利用できなくなるので困惑している。

(特別支援級について) 7事例

- ・障害のある子は、選べる学校が・就学時、選べる学校が学区の支援級か特別支援学校かの2択になっている。学区以外の支援級は見学すらできない。通常級の子たちは、学校選択制なのに、発達センターの子、障害のある子たちは選べない。
- ・専門性を持った教員が少ないことが多い。個々の児童の特性に応じた対応ができず結局こじらせてしまっている。
- ・交流学級に行く際、付き添いの教員が足りずに1人で移動できる児童でないと交流学級に行けなかった。
- ・中学校の特別支援学級で進路として特別支援学校高等部の通学について話していたところ自転車で行くのはいかがでしょうか、と言われた。特別支援学校の情報を充分知らない様子。…複数
- ・知的障害以外にもいわゆる「クラスにいられない子」を支援級に在籍させている現状が多い。家庭の問題を抱えたお子さんや発達障害、心の不安定を抱えたお子さんと知的障害のお子さんの支援方法は明らかに異なるので対応できていないと感じる。
- ・支援級の担任が児童に対して幼児語を使っている。
- ・横になって休む時間があり、高学年の女子児童が低学年の男子児童の隣に寝たくないと言っても聞

き入れてもらえなかった。幼児としてみなしている。ちゃんづけ、赤ちゃんことば、人としてみていないと感じる。

○特別支援学校通学のお子さんをお持ちの親御さん方のご意見

松戸手をつなぐ育成会からサポサポへの報告…6事例

(医療受診について) 1事例

- ・休日に子どもが額にケガをしまい病院を探しても知的障害があると伝えると断られ続け、受診を諦めた。…複数

(特別支援学校について) 2事例

- ・生徒の過密化、教員不足が著しい。教室は足りず、専門教室がどんどんつぶされ一般教室になってしまう。専門教科が一部できなくなる。
- ・排泄の自立を進めてきたが、中学部になり、先生が忙しくて長い時間、排泄支援に時間をかけることが出来ないと担任から言われた。…複数

(放課後デイサービスについて) 3事例

- ・本人と同性の職員が退職してしまったため、利用日数を減らしてくれ、と言われた。
- ・手がかかるから今月で辞めてくれと突然言われた。
- ・放課後等デイサービスの男性支援員が高学年の女子児童にべったりと抱きつかれて甘えられていたがそれを支援員は特に気にせず任せていた。

【相談支援連絡会】事例検討シート NO.1

事例提供者: 所属

氏名

検討日: 令和7年10月14日

【基本情報】

年齢	児童福祉対象者	性別	男	住所	<input type="checkbox"/> 中央 <input checked="" type="checkbox"/> 常盤平 <input type="checkbox"/> 小金	障害種別	<input type="checkbox"/> 身体 <input checked="" type="checkbox"/> 知的 <input type="checkbox"/> 精神 <input type="checkbox"/> 発達 <input type="checkbox"/> 未診断 <input type="checkbox"/> その他
障害者手帳	<input type="checkbox"/> 身体() <input checked="" type="checkbox"/> 知的(B-2) <input type="checkbox"/> 精神()	自立支援医療	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	障害支援区分	<input type="checkbox"/> 区分 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
家族構成		本児 父母 弟		関係機関	基幹相談支援センター 小学校、 病院(児童精神)、 放課後等デイサービス、 短期入所事業所		
				経済状況	<input type="checkbox"/> 給与 (円/月) <input type="checkbox"/> 障害基礎年金 (級) <input type="checkbox"/> 障害厚生年金 (級) <input type="checkbox"/> 生活保護 <input type="checkbox"/> その他 (円/月)		
基礎情報 (障害に関する情報) (生活歴)		未就学児から母親が育てにくさを感じており、児童発達支援(民間・こども発達センター)に通っていた。年長時には保育所に障害児枠として入園し、児童発達支援と併用して過ごしていた。その後、小学校は支援級(知的)へ入学する。本児が年長時から本児母の精神疾患が不安定になり、1年の半分弱を短期入所の利用して過ごしていた。小学校入学後もその生活が続くことになり、本児の成長発達と安定した生活を考えて、短期入所ではなく施設入所となっている。					
検討したい助言を欲しい事 (事例提供理由)							
本人や家族の希望		(本人) (家族)					
相談支援専門員の見立てと対応経緯		母親は精神疾患、父親は発達障害の診断があるため、母親の入院検討時に児相に相談。特例の短期入所で遠方の施設を長期利用をしていたその後も母親は入院を繰り返し、月半分の平日を短期入所の利用をして過ごしていた。					
その他の情報							
検討した内容							
地域共通課題として行政に提案したい事項		松戸市内には知的障害のある児童向けの短期入所施設がなく、精神疾患のある母親の日々のレスパイトが困難な状況。結果として母親は入退院を繰り返し、本児の安定した生活や教育の機会が失われ、他市の施設へ入所せざるを得なかった。つきましては、松戸市内における知的障害児の短期入所先の整備をご検討いただけますようお願いしたい。					

【相談支援連絡会】事例検討シート NO.2

事例提供者:所属

氏名

検討日: 令和7年10月15日

【基本情報】

年齢	20代	性別	男	住所	<input checked="" type="checkbox"/> 中央 <input type="checkbox"/> 常盤平 <input type="checkbox"/> 小金	障害種別	<input type="checkbox"/> 身体 <input type="checkbox"/> 知的 <input checked="" type="checkbox"/> 精神 <input type="checkbox"/> 発達 <input type="checkbox"/> 未診断 <input type="checkbox"/> その他
障害者手帳	<input type="checkbox"/> 身体() <input type="checkbox"/> 知的() <input checked="" type="checkbox"/> 精神()	自立支援医療	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	障害支援区分	<input checked="" type="checkbox"/> 区分3 <input type="checkbox"/> 無		
家族構成		独居※家族は離れて暮らしている。		関係機関	基幹相談支援センター 訪問看護 居宅介護		
				経済状況	<input checked="" type="checkbox"/> 給与 (円/月) <input checked="" type="checkbox"/> 障害基礎年金 (級) <input type="checkbox"/> 障害厚生年金 (級) <input checked="" type="checkbox"/> 生活保護 <input type="checkbox"/> その他 (円/月)		
基礎情報 (障害に関する情報) (生活歴)		統合失調症。現在単身独居となる。希死念慮や衝動性から措置入院を数回繰り返す。					
検討したい 助言を欲しい事 (事例提供理由)							
本人や家族の希望		(本人) (家族)迷惑をかけてほしくない。と推察。					
相談支援専門員の見立て と対応経緯		関係機関との情報共有を適宜に実施。関係性の構築を行い、安心して相談できる場所の確保を図る。					
その他の情報							
検討した内容							
地域共通課題として 行政に提案したい事項		入院以外のレスパイトが無い。地域生活支援拠点においても精神障害が対応になる事例は少ないのではないか。					

【相談支援連絡会】事例検討シート NO.3

事例提供者: 所属

氏名

検討日: 令和7年10月15日

【基本情報】

年齢	20代	性別	男	住所	<input type="checkbox"/> 中央 <input checked="" type="checkbox"/> 常盤平 <input type="checkbox"/> 小金	障害種別	<input type="checkbox"/> 身体 <input checked="" type="checkbox"/> 知的 <input type="checkbox"/> 精神 <input type="checkbox"/> 発達 <input type="checkbox"/> 未診断 <input type="checkbox"/> その他
障害者手帳	<input type="checkbox"/> 身体() <input checked="" type="checkbox"/> 知的(A-1) <input type="checkbox"/> 精神()	自立支援医療	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	障害支援区分	<input checked="" type="checkbox"/> 区分6 <input type="checkbox"/> 無		
家族構成		父母 兄弟		関係機関	基幹相談支援センター 訪問看護 居宅介護		
				経済状況	<input type="checkbox"/> 給与 (円/月) <input checked="" type="checkbox"/> 障害基礎年金 (1級) <input type="checkbox"/> 障害厚生年金 (級) <input type="checkbox"/> 生活保護 <input type="checkbox"/> その他 (円/月)		
基礎情報 (障害に関する情報) (生活歴)	重度知的障害。家を出て行ってしまいう行動あり。特別支援学校卒業後、生活介護事業所に通所。大きな声出しなどもあり、近隣からの苦情あり。こだわり行動が強く家族も疲弊。服薬調整のための入院なども病院に打診中。						
検討したい助言を欲しい事 (事例提供理由)							
本人や家族の希望	(本人)聞き取り困難 (家族)入所施設への入所を希望						
相談支援専門員の見立てと対応経緯	入所施設の空きを待ちながら、GHの見学を行い本人にあったGHを探す。市外の入所施設もご案内。						
その他の情報							
検討した内容							
地域共通課題として行政に提案したい事項	入所施設ほどの手厚い支援が望めるGHがない。民間企業のGHに関する悪いニュースが多く、親御さんの信用がない。						

【相談支援連絡会】事例検討シート NO.4

事例提供者:所属

氏名

検討日: 令和7年10月15日

【基本情報】

年齢	30代	性別	男	住所	<input type="checkbox"/> 中央 <input checked="" type="checkbox"/> 常盤平 <input type="checkbox"/> 小金	障害種別	<input type="checkbox"/> 身体 <input checked="" type="checkbox"/> 知的 <input type="checkbox"/> 精神 <input type="checkbox"/> 発達 <input type="checkbox"/> 未診断 <input type="checkbox"/> その他
障害者手帳	<input type="checkbox"/> 身体(1級) <input type="checkbox"/> 知的(<input type="checkbox"/> 精神(自立支援医療	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	障害支援区分	<input type="checkbox"/> 区分4 <input type="checkbox"/> 無		
家族構成		父母 兄弟		関係機関	訪問看護 訪問介護 計画相談		
				経済状況	<input type="checkbox"/> 給与 (円/月) <input type="checkbox"/> 障害基礎年金 (級) <input type="checkbox"/> 障害厚生年金 (級) <input type="checkbox"/> 生活保護 <input type="checkbox"/> その他 (円/月)		
基礎情報 (障害に関する情報) (生活歴)		脳出血で倒れ、失語症と身体の麻痺が残った。現在は在宅で訪問看護と訪問介護を受けながらほぼ家にいる状態。					
検討したい 助言を欲しい事 (事例提供理由)		ご本人の食費や散財で生活費が苦しくなってきたので、ご本人を施設か一人暮らしへ移行させることも考えたい。中途障害の方にとどのような暮らし方をご提案すればよいのか悩んでいる。					
本人や家族の希望		(本人)不明 (家族)本人を自立させたい。					
相談支援専門員の見立て と対応経緯		ご本人のお気持ちも聞いたうえで、日中支援型グループホームの利用、一人暮らしで訪問看護、訪問介護の利用を増やす、などを、ご本人、ご家族にご提案することを検討中。					
その他の情報							
検討した内容							
地域共通課題として 行政に提案したい事項		中途障害者の地域での活動場所、支援を受けながら居住できる場所がわからない					

【相談支援連絡会】事例検討シート NO.5

事例提供者:所属

氏名

検討日: 令和7年12月2日

【基本情報】

年齢	児童福祉対象者	性別	男女	住所	<input type="checkbox"/> 中央 <input type="checkbox"/> 常盤平 <input type="checkbox"/> 小金	障害種別	<input type="checkbox"/> 身体 <input checked="" type="checkbox"/> 知的 <input type="checkbox"/> 精神 <input checked="" type="checkbox"/> 発達 <input type="checkbox"/> 未診断 <input type="checkbox"/> その他
障害者手帳	<input type="checkbox"/> 身体(級) <input checked="" type="checkbox"/> 知的() <input type="checkbox"/> 精神()	自立支援医療	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	障害支援区分	<input type="checkbox"/> 区分 <input type="checkbox"/> 無		
家族構成		障害児の保護者団体の行事参加者より			関係機関		
					経済状況	<input type="checkbox"/> 給与 (円/月) <input type="checkbox"/> 障害基礎年金 (級) <input type="checkbox"/> 障害厚生年金 (級) <input type="checkbox"/> 生活保護 <input type="checkbox"/> その他 (円/月)	
基礎情報 (障害に関する情報) (生活歴)		特別支援学級の現状について					
検討したい 助言を欲しい事 (事例提供理由)		<ul style="list-style-type: none"> ・就学時、選べる学校が学区の支援級か特別支援学校かの2択になっている。学区以外の支援級は見学すらできない。昔は学区外も見れた。通常級の子たちは、学校選択制なのに、発達センターの子、障害のある子たちは選べない。 ・専門性を持った教員が少ないことが多い。個々の児童の特性に応じた対応ができず、結局こじらせてしまっている。 ・交流学級に行く際、付き添いの教員が足りずに1人で移動できる児童でないと交流学級に行けなかった。・中学校の特別支援学級で進路としてつくし特別支援学校高等部の通学について話していたところ自転車で行くのはどうか、と言われた。特別支援学校の情報を充分知らない様子。 ・知的障害以外にもいわゆる「クラスにいられない子」を支援級に在籍させている現状が多い。家庭の問題を抱えたお子さんや発達障害、心の不安定を抱えたお子さんと知的障害のお子さんの支援方法は明らかに異なるので対応できていないと感じる。 ・クラスで暴言を吐いたり、先生の机からカッターナイフを取り出したり、窓から外に出ようとしていたりするお子さんにも「やめなさい」くらいの注意のみであとはほったらかし。騒いでいる児童の対応でほかの児童は放置されている。・支援級の担任が児童に対して幼児語を使っている。 ・専門性を持った教員が少ないことが多い。個々の児童の特性に応じた対応ができず、結局こじらせてしまっている。・横になって休む時間があり、高学年の女子児童が低学年の男子児童の隣に寝たくない(男子の隣で寝たくないという意味)と言っても聞き入れてもらえなかった。幼児としてみなしている。ちゃんづけ、赤ちゃんことば、人としてみていない。 					
本人や家族の希望							

相談支援専門員の見立てと対応経緯	障害児の保護者団体から、サポサポ会長への報告と相談
その他の情報	
検討した内容	<p>今回挙がってきた様々な事例からは、特別支援学級の先生方が余裕のない大変な状況の中で毎日個性の強い子どもたちを支援する現状がうかがえる。</p> <p>障害特性に応じた対応や、障害児者の権利擁護についても学ぶ機会が持てないくらい忙しい現状があるのでは。</p>
地域共通課題として行政に提案したい事項	<p>発達障害と診断される子や学校に行けない子、行かない子が急増する中、特別支援級には様々な子が集まり、その役割の期待される場所もさらに大きくなっていると感じる。</p> <p>特別支援学級の機能をどのように強化していくか、そこで働く先生方をどう支えていくか検討が必要であるとともに、障害福祉分野、療育との垣根を超えた情報交換、交流の機会を増やしていくことが望ましいと思われる。</p>

【相談支援連絡会】事例検討シート NO.6

事例提供者: 所属

氏名

検討日: 令和7年12月2日

【基本情報】

年齢	児童福祉対象者	性別	男	住所	<input type="checkbox"/> 中央 <input checked="" type="checkbox"/> 常盤平 <input type="checkbox"/> 小金	障害種別	<input type="checkbox"/> 身体 <input checked="" type="checkbox"/> 知的 <input type="checkbox"/> 精神 <input type="checkbox"/> 発達 <input type="checkbox"/> 未診断 <input type="checkbox"/> その他
障害者手帳	<input type="checkbox"/> 身体(級) <input checked="" type="checkbox"/> 知的() <input type="checkbox"/> 精神()	自立支援医療	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	障害支援区分	<input type="checkbox"/> 区分 <input type="checkbox"/> 無		
家族構成		母 姉兄弟		関係機関	柏児童相談所 松戸市こども家庭センター 学校 松戸市SSW 発達障害者支援センターCAS 警察		
				経済状況	<input type="checkbox"/> 給与 (円/月) <input type="checkbox"/> 障害基礎年金 (級) <input type="checkbox"/> 障害厚生年金 (級) <input type="checkbox"/> 生活保護 <input type="checkbox"/> その他 (円/月)		
基礎情報 (障害に関する情報) (生活歴)		<p>周囲の友達の雰囲気は読めず、自分の気持ちを押し通してしまい、普通級にはいられなくなる。徐々に行動の問題が顕著になる。窃盗や小さい子への脅しなども始まり、地域全体から問題視されはじめる。本児はとくに愛着の障害が疑われる。母が仕事もあり充分に関わる時間がない。</p>					
検討したい 助言を欲しい事 (事例提供理由)		<p>学校、児相、CAS、SSW、子家セン、様々な事業所が参加。 本人を教育、療育出来る場所を急遽検討したかった。 しかし、家庭で落ち着いているならと、児相はなかなか動きださず。 本人の教育をどう積むかに話がなかなかシフトしていかない。</p>					
本人や家族の希望		(家族)本人がきちんと学べる場所で暮らさせたい。もう家庭では見切れない。					
相談支援専門員の見立て と対応経緯		<p>地域のこどもたちも怖がり、このままでは、本人の問題だけでなく他の子への影響も大きい。 本人の自尊心もどんどん傷つき悪い方へ流れる。</p>					
その他の情報							
検討した内容							
地域共通課題として 行政に提案したい事項		<p>この事例にとどまらず、本人がよほど大きな事件を起こしていないなら、よほど生命が危険な状態にないなら、と、すぐには児童相談所の対応が望めない。 子どもたちの育ちは、ただ食べて飲んで生きていればよいということではない。 子どもたちが、ちゃんと教育を療育を受けられる権利が侵害されていると感じる。 松戸市独自でも、子どもたちの安全と、本当の育ちを視野に入れた取り組みを早急に始められないだろうか。</p>					

【相談支援連絡会】事例検討シート NO.7

事例提供者: 所属

氏名

検討日: 令和 年 月 日

【基本情報】

年齢	40代	性別	女	住所	<input type="checkbox"/> 中央 <input type="checkbox"/> 常盤平 <input checked="" type="checkbox"/> 小金	障害種別	<input checked="" type="checkbox"/> 身体 <input type="checkbox"/> 知的 <input checked="" type="checkbox"/> 精神 <input type="checkbox"/> 発達 <input type="checkbox"/> 未診断 <input type="checkbox"/> その他
障害者手帳	<input checked="" type="checkbox"/> 身体(1種2級) <input type="checkbox"/> 知的() <input checked="" type="checkbox"/> 精神(2級)	自立支援医療	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	障害支援区分	<input checked="" type="checkbox"/> 区分 4 <input type="checkbox"/> 無		
家族構成				関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・小金基幹相談センターおんぷ ・居宅介護事業所 ・医療機関 		
				経済状況	<input type="checkbox"/> 給与 (円/月) <input checked="" type="checkbox"/> 障害基礎年金 (2級) <input type="checkbox"/> 障害厚生年金 (級) <input checked="" type="checkbox"/> 生活保護 <input type="checkbox"/> その他 (円/月)		
基礎情報 (障害に関する情報) (生活歴)	<p>幼少期は既往歴なし。20代で結婚、男児出産。その後に離婚。飲食業で10年働く。30代の時姉から虐待され(本人の話)うつ病になった。障害者雇用で働いていたが交通事故にあい脳脊髄減少症と診断され現在は軽快。その後に ME/CFS(筋痛性脳脊髄炎)の診断を受ける。長時間の歩行は疲れてしまうので電動車いす使用。ME/CFS の悪化を防ぐため居宅介護と訪問看護を開始したが、CS(化学物質過敏症)の症状が強くなり、他人が自宅に入っの支援が難しくなる。同時期に訪問診療も開始したが、医師が化粧をしていたことを理由に断っている。現在自宅内に入れる支援者は、居宅介護事業所の特定の支援員のみ。ケア用の服は本人宅で洗濯、保管、ケア前後に着替えるという対応を行っているが、それだけでは足りず、私生活でも本人と同じ洗剤やせっけんを使い、香料を排除した生活を送っている。香料に対する過剰な反応は精神的なものではないかと支援者は感じているが、本人は精神障害ではなく身体障害であると固く信じている。障害年金は精神で出ているため、意見書のために医療機関に2年ごとに通院している。</p>						
検討したい 助言を欲しい事 (事例提供理由)	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が望む対応をするにはヘルパーの私生活に制限をかける必要があるため、新しいヘルパーが見つからない。訪問看護も同様で対応ができる看護師が見つかっていない。本人は同じ CS の患者で軽度の方にケアに入ってほしいと希望しているが、そういう方をどこで探せばいいのかアイデアがほしい。 ・ヘルパーを増やす以外にどういう提案できるのか助言を頂きたい。 ・「香害」が少しずつ世間に認知されてきているが同じように CS で生活に支障が出ている人がいるのか、どういう対応をしているのか知りたい。 ・居宅事業所に問い合わせる中で、そもそも CS がどういうものか知らないことが多く、広く知ってもらうにはどうしたいか考えていただきたい。 						
本人や家族の希望	<p>(本人)自分と同じ CS の人、同じような香料を排除した生活をしている人にケアに入ってほしい。できるだけ支援を入れて ME/CFS の悪化を防ぎたい。</p>						

	(家族)
相談支援専門員の見立てと対応経緯	<p>前任の相談員が引き継ぎ対応。松戸市内、柏、流山の一部地域の居宅事業所全てに問合せ、化学物質過敏症への配慮ができるか聞いたが、本人が望む対応ができる場所は無かった。居宅介護事業所は ME/CFS のお知り合いが紹介してくれて契約に至り、週1回浴室トイレの掃除をしている。その他家事援助で必要な買い物も週2回行ってもらっている。通院は1人で都内に1人で行けており、食事も冷凍やレトルト、ヘルパーが買ってきた弁当等とれているので緊急性はないと考えている。年1回小金基幹相談にも参加していただき担当者会議を行っている。</p>
その他の情報	<p>県外に母が住んでいて、以前は訪問し掃除などしてくれていたようだが、最近足が悪くあまり訪問していない様子。息子は逝去。</p>
検討した内容	
地域共通課題として行政に提案したい事項	